

戸田康之さん『教え子の夢』（5月30日配信）

こんにちは！戸田です。よろしく。
今日のお話は、教え子の将来の夢についてです。

私は今、ろう学校の幼稚部で働いています。

3月までは幼稚部3年生、つまり年長の子どもたちを受け持っていました。子どもたちは3月に幼稚部を卒業したわけです。卒業した教え子たちは今、小1で、同じろう学校の小学部にいます。ときどき顔を合わせたり、休み時間には幼稚部の庭に遊びに来ることもあって、会えた時にはおしゃべりもしたりします。

そんな中で、ある女の子が私にこんなことを言ったんです。「先生、わたし、二十歳になったら学校に来る！」と。二十歳で学校に来るというのはどういうことなんだろう、とよくよく話を聞いてみると、「先生とわたし、一緒！」と言うのです。それで言いたいことが分かりました。二十歳というのは彼女の中では“おとな”というイメージなんですね。おとなになったらろう学校に来る、私と一緒に、というので、「もしかして、先生と一緒に仕事をするの？」と聞くと、そうだとはいいます。「大きくなったら、ろう学校の先生になりたいの？」と聞くと大きく頷き、この幼稚部で仕事したい！と言ってくれたので、本当に嬉しくなりました。

今まで、教え子から“ろう学校の幼稚部の先生になりたい”と言われたことはありませんでした。彼女が初めてです。彼女にとっては、幼稚部が本当に楽しかったということなんですね。もし幼稚部の生活が嫌だったのなら、将来幼稚部の先生になりたいと思うこともなかったでしょう。私も昔はそうでした。小さい頃、幼稚部の先生になりたいなんて思わなかったです。でも彼女はそうのように言ってくれたんです。この幼稚部での3年間で本当に楽しいものだったからこそそんなふうと言ってくれたんだと、本当に嬉しかったです。

将来、成長した彼女と一緒に仕事ができる日が楽しみです。でも、彼女はとてもまじめな子なので、一緒に仕事ができる頃には私はもう60歳ですから、その頃の私はいい加減になっていて逆に怒られてしまうんじゃないかなあという気がします。